

し雨天の日と雖も出來得るかぎり車に依らず質實剛健の風を養ふべきである、勿論衛生上の注意は云ふまでもない。

概略以上の事柄は、此の時期に於て當然父兄の一期は學校でも成るだけ校風に慣れるやうに寛なる取扱ひをなし居れば家庭に於ても其旨を含み餘りに監督嚴格に失せぬやうに注意ありたい是れ教育上よりするも將に衛生上よりするも極めて必要なる事柄である。

支那の婦人と子と もに就いて

法貴夫人

私は昨年まで四年ばかりの間支那の北京に生活して居りましたが、ホンのお供で参りましたのでありますから別段御話するやうな材料も持ちませぬ、又斯ういふ席に生まして皆さんの前でお話し

たこともございませぬから何を申して宜いのか少しも分りませぬが、只ホンの見て参りました支那の婦人と子供のことを申上げたいと思ひます。支那の上流の婦人は御承知の通り深窓の下に育立ちまして平生自分の家に居ります時でも一番奥の方に住んで居ります、滅多に表の方に出るといふやうなことはありません、況して男の人などに遭うといふことはありませぬ、奥さん同志は大變親密にして居るやうな方でも其奥さんの良人と互に知らないやうな有様でありまして又良人の方でもそれが風習でありますを敢て怪しむこともなく皆普通のことになつて居ります、さういふ風に男と席を交へるといふことは決して致しませぬ、それでありますから商品陳列所のやうな物が出來ても何日が女の見の日で何日が男の日と極つて居るのでございませぬ、イツでございませぬ、岡山の孤兒院が参りまして活動寫眞を致しました時なども矢張りさういふ風に幾日は女の日と云ふやうに分けました、分けて致しませぬと女は一人も参りませぬ、或時私が或る女學校に参りまして

色々話をして居りますと……教師は無論女ばかりでござりますが、すると幹事が隣の部屋から大きな聲をして話を仕掛ける、何か相談があるならコチラへ来ればよいのと思ひましたが這入つて参りませぬで矢張り大きな聲で言ふのであります、段々考へて見ますと男女七歳にして席を同合せすといふことを守つて居るのでございませす、さうして男の幹事は用が濟むと隣の部屋からサツ／＼と出て行つて仕舞ひませす、さういふ有様であります、上流の婦人になりますと家に澤山の腰元を使つて、大臣といふやうな者になりますと、少し仰山のやうでありますが召使が殆どウヨ／＼して居ると言つてよい位居りました或は煙草を付ける女、お茶を酌む女、お菓子を出す女と云ふやうに澤山居つて奥さんは人形のやうにチャンとして何もしない、斯う云ふやうに自分で總て手を下さないで何もしないと云ふのが上品だと思つて居るのじありますから随つて運動不足で日本の婦人のやうに庭に出て活潑にテニスなどをするといふやうなことはない、この運動の不足といふものは非常

なものであるから何れの婦人の顔の色を見ても眞青で御座います。其眞青な顔へお白粉をベタ／＼眞白に付けて兩頬に頬紅を差して居るのでありますから遠くから見ると奇麗であります、殆ど血と自然の綺麗なのではないのであります、殆ど血の氣の無いやうな顔色であります、でありますから男の支那人が宅に参りまして日本の婦人を見ると實に活き／＼してよい顔色であるときよく云ひ云ひいたしました。既に自國の人も是等のオカシな事には氣が付いて居るのであります。頭はどんなかと申しますと、鬘は滿州人と漢人に依つて違ひますが、斯う云ふ風に鬘を被つたやうな鬘であります、後の方に圓く結つたのも御座います、いづれも廻りをズツと引詰めまして油をたくさん付けて髪の毛が亂れないやうに綺麗になで付けて居ります芝居などに参りますと側に女中が附いて居りますして水と刷毛を持つて居りました始終奥様の頭を撫で、居ります、それから著物は非常に華美な色で、四十位までは緋の著物を著ます、緋の緞子とか縹子だとか奇麗な刺繡をしたものを着て居りま

す、それで頭には奇麗な簪をさして眞白にお白粉を付けて居る婦人が五六人も集つて居ります。随分奇麗でございませう、日本の婦人が斯ういふ服装をして居ると喪中でございませうか、言つて聞きます、向かう見ると日本の婦人の着物は地味に淋しく見えるので御座います、さふ云ふ風に着物も派手やかでございませう、室内の装飾なども矢張り其通り奇麗でございませう、喪中などには白いものを掛けますが、平生は大抵テーブル掛でも椅子でも緋の色のやうな極くハデやかなものを用ゐて居ります、坐團蒲なども矢張り赤いのでございませう、餘程赤い色を好むのでございませう、家の廻りの拵へ方なども青だの赤だの赤いので塗立て、日本で申しますと極彩色の家が並んで居るやうであります、赤い地の所へ金色の文字を出してあるからピカ／＼して奇麗でございませう、さう云ふ奇麗な町でございませうのに昨年でございませうか西太后が崩御になりました時などは一夜の中に町の赤い装飾や何かをすべて白色に塗りかへましたから町の様子が非常に淋しくなりました、之は詩り天子

の崩御を人民が哀んで居るといふ情を表したのでございませう、總てさういふ風に着物でも家でも何んでも華美にするといふことは外界の關係から來たのだらうと思ひます、御承知の通り北京は春になりまして櫻が咲くではなし秋になりましても楓の紅葉を見るではなく實に満目蕭寥と云ふ光景を現はして居ります、故室内衣服を華やかにして樂みを内に求めて居るので御座います、それに引替へ日本では何處を見ても縁色の中に花が咲いて居りまして私共一家の者もこの美して春に遭ひまして子供迄喜んで居ります。支那の婦人は深窓の裡に育立ちまして餘り他人に顔を合せない、ソソなら卑屈でモデ／＼して居るだらうとチヨツと考へますが、所が中々さうでありません、宴會や何かに出ますと一つ卓子を圍んで活潑に元氣よく話します、色々の材料を持つて來て話を仕掛けます、決して人を外らすと云ふことは無い、招いたお客と共に一日食事をしたがら話をして喜ばせる、中々交際が上手でございませう、チヨツト矛盾して居るかと思ひますが、矢張り

りそれは支那の家族制度がア、いふ風でございませう、から養はれたのではないかと思ふ、支那では一軒の家に澤山家族が居る程自慢だといふこととでございませう、例へば息子が三人あるとすると其三人の息子に各々嫁を貰つて一家の内に任んで居るといふのが宜いとしてあるのださうであります、さうして互に其嫁同志が仲好く姑に事へる、多少自分に氣まづいことがあつても忌やな顔をしないでニコ／＼笑つて暮す、又嫁の姑に事へると云ふことは餘程八釜しい風習になつて居る、嫁と姑が一緒に餘所へ行くと嫁は腰を掛けることも出来な、い、姑の側に立つて居つて姑が煙草の火を點けてやり菓子を取つてやるといふ風に至れり盡せり能く盡すのであります、支那の婦人はさういふ風になんか交際が上手でございませう。

それから子供でございませうが、子供は何處の國の子供でも可愛うございませうが、支那の子供も可愛らしうございませう、顔はフツクリとふくれて垂頬になつて居つて紅を付けて芥子坊子を七つも八つも置いて、さうして此位しか毛のないのを根の處

でキリ／＼と巻いて居る、さういふ風にして遊んで居る所などは大變に可愛い、丁度アノ繪に書いてある唐子のやうであります、子供の着物は上下二つで、下は股引のやうになつて上は日本の被布みたやうなもので二重になつて居りまして冬は股引も足袋も皆綿入で風が何處からも這入らないやうになつて居る、綿入の足袋に靴を穿かせる、夏でも股引を取らないことになつて居る、夏などは下等社會の子供が表に寝轉んで遊んで居るのでも皆股引と足袋は穿いて居る、之は只涼えないと云ふばかりでなくアチラには悪い虫が居ります、所謂蛇蝎の如しと云ふ蝎といふ危険な虫が居ります、若し其虫にかまれるといふと其かまれた部分を切つて捨てなければ其毒が全身に廻ると云ふこととがありますからそれで足を包んで置くのであらうと思ひます、それから女の子でも十五六位までの髪は引き詰めにしまして三つ組みに組んで垂して其末の方を赤い糸で括つて居ります、着物は平常は十四五になりましても淺黄のキヤラマの著物を着て居る、只女の子のは袖口の先にリボンなど

を付けて居る、支那では總て不斷の着物は淺黃のキヤラコと極つて居ります、それでですから何枚拵へても同じ事です、それから拵へないといふことになら、學校には教場の壁に「脂粉を施すを禁す」衣服は淺黃のキヤラコとすなど、書いてありまして濫りに華奢に流れることを禁じて居ります、でありますから見ても氣持のよいやうに揃つて居ります、子供の玩具は矢張り日本と同じやうでございます、ましてまたソソに進んで居りませぬか、木だの土だの馬や馬車などを拵へて御座います、近頃日本の方が粗漏でございますから價も安い、玩具が流行で何處の見世でも賣つて居り、上流の方に歡迎されて居ります、上流の子供には矢張りお伴が付いて居りますが下流の子供になると同じやうであります、城外に川がありますから夏などは其川の邊へ行つて澤山遊んで居る、私共が遊びに行きました時に子供が大勢川に飛込んで遊んで居りましたが頻りに錢を投げ込んで呉れと申しますから投げてやりましたら競争して急いで潜つて拾つて來るのであります、さういふとは中々機敏

でございます。それから食物でございますが、食物は上流の人は銘々家に料理番を置いて拵へて居りますけれども下等社會になりますと振り賣の物を買つて戴いて居ります、ナゼかといふとアチラは燃料が御座いませぬ。薪炭が非常に高うございます、お粥から肉の焼いたのからお汁といふやうな物まで、總て賣に來ますから、それを賣つて戴いた方が經濟でございます、湯だけ沸す、さういふ風に振賣りから買つて食べますから兩親とも外へ出て働く阿父さんは馬丁に出で阿母さんは子守に行くといふやうな者は僅かに二三錢で振賣の物で濟すからチヨツとも手が掛らないのでございます。

倫敦の母學校

新歸朝者 田中太郎氏談

澁澤男爵の依頼により、英國倫敦を始め其他各國